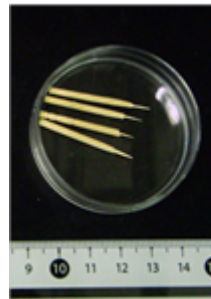


非病原性フザリウム菌と弱毒ウイルスを組み合わせた ネコブセンチュウ防除技術の開発

平成20～22年度 農林水産省 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業
「新微生物機能によるナス科果菜のネコブセンチュウ防除技術の開発」

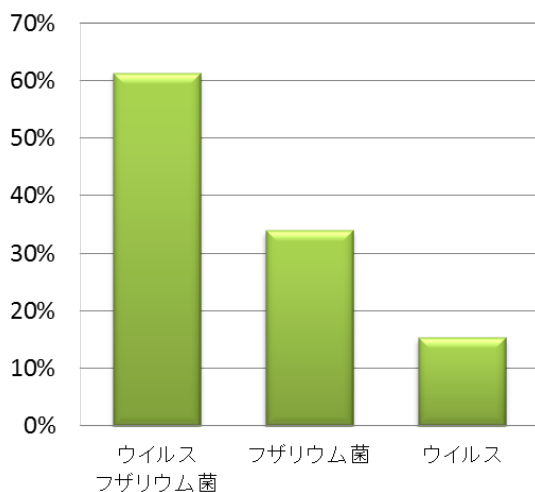
- ▶ トマトには、ネコブセンチュウが発生し、大きな被害を与えています。
- ▶ 農薬を使わない線虫防除法として、非病原性フザリウム菌を茎に接種する生物防除法を開発しました。



爪楊枝加工ペグによる菌の茎接種

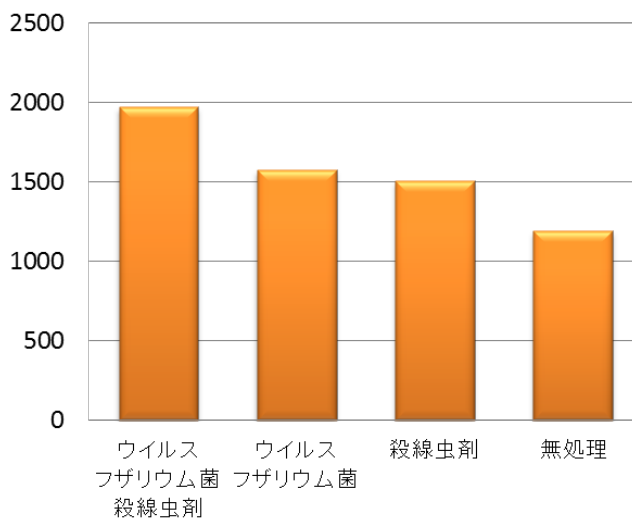
- ▶ その方法に弱毒ウイルスの幼苗接種を組み合わせると、防除効果がさらに上昇しました。

防除価(線虫侵入抑制)



ウイルス: トマトモザイクウイルス(弱毒系統)
フザリウム菌: 非病原性F13株
(三重県農業研究所、場内試験)

果実重g/株



ウイルス: メロン微斑ウイルス(トマトに弱毒)
フザリウム菌: 非病原性MFP3株(三重県選抜)
(広島県大崎上島町現地試験)

微生物の持つパワーを組み合わせると、
想定以上のネコブセンチュウ防除効果が発揮されます。

非病原性フザリウム菌と弱毒ウイルスの利用で、
植物抵抗力を強化した線虫防除法を開発しています。

本成果は、広島県立総合技術研究所農業技術センターおよび
三重県農業研究所との共同研究にもとづくものです。



農研機構

中央農業総合研究センター病害虫研究領域